

猛威を振るう風疹 ワクチン接種の重要性について

【風疹に関する基本知識】

- 風疹は、風疹ウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。
- 風疹ウイルスの感染経路は飛沫感染であり、くしゃみ等でヒトからヒトへ感染が広がっていきます。その感染力は強く、**風疹への免疫がない集団において、1人の風疹患者から5～7人にうつす強い感染力を有しています。**
- 特に、風疹罹患後の症状である発疹の出る前後約 1 週間は人に感染させる可能性が高い状態にあります。ですが厄介なことに、風疹に罹ったとしても必ずしも症状が現れるとは限りません。
- 症状は感染してから 14～21 日の潜伏期間を経て出現しますが、中には**不顕性感染(感染症状を示さないもの。感染者の15%～20%程度)**となる場合もあります。



	大人	子供 (1歳～12歳ぐらい)
症 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 38℃以上の発熱 ・ 発疹 ・ リンパ節の腫れ (耳介後部、後頭部、頸部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 38℃以上の発熱 ・ 発疹 ・ リンパ節の腫れ (耳介後部、後頭部、頸部)
合併症	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急性脳炎、血小板減少性紫斑病 ・ 関節痛 (主に女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急性脳炎、血小板減少性紫斑病
回復までの期間	1週間以上	3～4日程度
治 療	発熱、関節炎などに対しては解熱鎮痛剤が用いられますが、特異的な治療法はなく、症状を和らげる対症療法が基本となります。	

■ 予防のためにワクチン接種を心がけよう!

風疹ワクチン(主に接種されているのは、麻しん風しん混合ワクチン)を接種することによって、95%以上の方が風疹ウイルスに対する免疫を獲得することができますと言われています。

また、2回の接種を受けることで、1回の接種では免疫が付かなかった方の多くが、免疫をつけることができます。

しかし、ワクチンの効果は永久的ではありません。接種後年数の経過と共に、免疫は低下してきます。

そういった方に対しても、追加のワクチンを受けることは免疫を増強させる事につながります。



予防接種の適応に関して、抗体価が8倍未満の場合は、免疫を保有していないため、風疹含有ワクチンの接種が推奨されます。これに加え、「妊娠を希望する女性」や「十分な免疫を保有していない妊婦の同居所」等はHI抗体価が8倍・16倍の場合でも、確実な予防のため風疹含有ワクチンの接種が推奨されます。

風疹の感染または過去の風疹の予防接種によってすでに免疫を持っている方が再度接種を受けたとしても、特別な副反応がおこるなどの問題はありません。そのため、既に十分な免疫がある場合においても、予防接種を行うことで風疹に対する免疫をさらに強化する効果が期待されます。

■妊娠中の女性は要注意！ 男性の皆さんもご協力を

風疹に対する免疫が不十分な妊娠 20 週頃までの女性が風疹ウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつ(先天性風疹症候群)子どもが生まれることがあります。その可能性は、妊娠1ヶ月でかかった場合 50%以上、妊娠2ヶ月の場合は 35%などとされています。ですが、知っておくべきは、



「妊娠中の女性は風疹のワクチン予防接種を受けることができない」という点についてです。

- ワクチンは成分の違いから、大きく「生ワクチン」「不活化ワクチン」に分けられます。
- インフルエンザワクチン等の不活化ワクチンは、体内でウイルスや細菌が増殖することはないので、胎児に影響はありません。
一方、風疹ワクチンのような生ワクチンは、ウイルスが増殖して胎児に何らかの悪影響を与える可能性が否定できないため、妊娠中の女性は接種できません。
- 妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、抗体を持たない又は抗体価の低い方は、可能な限り不要不急の外出を避けるなど、風疹に罹らないように注意するようにしましょう。
- また、妊娠中の女性の周りにいる人(夫、子ども、その他の同居家族等)は、風疹に感染しないように予防に努めましょう。

■男性の皆さん、風疹ワクチンの予防接種が無料って知っていますか？

風疹ワクチンの予防接種がはじまったのは 1977 年のことですが、当時は中学生の女子のみを対象としてはじまりました。以降、定期予防接種に関する制度の変遷によって、2006 年からは子供の頃に2回、無料で予防接種を受けられるようになっていきます。

その一方で現在問題となっているのが、これまで予防接種法に基づく定期接種を受ける機会が一度も無かった昭和 54 年 4 月 1 日、以前に生まれた男性に感染が特に広がっているということです。

そのため、厚生労働省は抗体保有率が低い対象世代への予防接種を無料で行うことを決定しました。



風疹ワクチンの無料予防接種実施について



対象：昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日までの間に生まれた男性 (対象世代の男性)

期間：2019 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日まで

※風疹の抗体検査や予防接種実施機関については、厚生労働省の下記 HP をご確認ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

その他詳細な風疹に関する情報に関しては以下のページをご参照下さい。

- https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index.html (厚生労働省)
- <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html> (国立感染症研究所)